



# 県政報告 Vol.30

2025.1月発行



## 愛知県議会議員 神谷まさひろ

皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は大変お世話になり誠にありがとうございました。「日記形式での県政報告Vol. 30」をお届け致します。

今回は昨年の12月定例愛知県議会の内容のほかに、各種イベントを切り口として県政の情報をお伝え致します。皆様にはぜひご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



### 11.14 木 ▶ 建設中の愛知県新体育館 (IGアリーナ) を視察しました

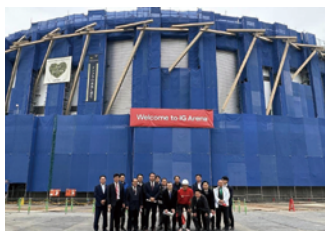
**ア** ジア・アジアパラ競技大会推進特別委員会の県内調査で、名城公園内に現在建設中のIGアリーナ(愛知県新体育館)を視察しました。

2025年7月13日の大相撲名古屋場所においてこけら落としを行うこの施設は、延床面積63000㎡(現体育館17240㎡)、地上5階建て、収容人数最大約17000人(現体育館7407人)で、官民連携の我が国のモデル事業となっている施設です。主な特徴を紹介すると…

- ネーミングライツパートナーであるIGグループについて  
⇒ロンドンに本社。多様な金融サービスを行うフィンテック企業。北米・欧州・アジア地域を含む世界19拠点にオフィスを持つ。ネーミングライツ料は非公開ですが10年間で、どうやら北海道のエスコンフィールドよりも高額らしいです(年間5億円ほど×10年間かな?)
- 運営会社構成企業の中に、NTTdocomoなどのほか、世界のトップアリーナ運営企業で施設開発から運営・音楽興行等幅広いエンターテインメント事業を展開しているAEGが参画している⇒世界的に有名なアーティストの招致と全世界への配信が可能に

- Bリーグ名古屋ダイヤモンドドルフィンズホームアリーナに決定。
- デザインは国立競技場を手掛けた建築家の隈研吾氏「名古屋城を擁する名城公園から着想を得たデザイン」
- 最高のスポーツ&エンタメ観戦鑑賞体験を提供するアリーナ
- 国内アリーナトップクラスの映像・照明・音響と通信環境

中京大学の舟橋弘晃准教授によると、アリーナによる経済効果としては「半径3キロ圏の商業・飲食店舗の売り上げに貢献」「半径5キロ圏内の地価が向上」とのことです。一方、地域のエンターテインメント施設との連携や新たな観光資源の開発にも取り組んで行くとのことですから、「半径3キロとか5キロ」といった範囲ではなく、もっと広範囲でこの施設が生み出す波及効果に大いに期待したいと思います。



### 11.15 金 ▶ STATION Aiと刈谷イノベーション推進プラットフォームとが覚書を締結しました

**S** TATION Aiのパートナー拠点として刈谷イノベーション推進プラットフォームとの相互連携・協力に関する覚書の締結がSTATION Aiにおいて行われました。

愛知県は「Aichi-Startup戦略」に基づき、スタートアップ支援拠点「STATION Ai」と県内各地域の「STATION Ai

パートナー拠点」とが相互に連携・協力し、県内全域にわたるスタートアップ・エコシステムの形成を目指しています。

一方、刈谷市を中心に地元経済団体等で2024年8月に設立された「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」は県内有数のものづくり産業・自動車サプライヤーの集積地であることを生かした「ものづくりイノベーション」を取組テー

マとして、地域一体となって中小企業を対象としたスタートアップとの連携やオープンイノベーションの機運醸成を推進してきました。

そしてこの度、愛知県はイノベーション創出とエコシステム形成の更なる取組の発展に向けて「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」を「STATION Aiパートナー拠点」として、相互の連携・協力に関する覚書きの締結を行ったのです。今回の覚書き締結により、スタートアップに関する連携イベントの開催や、STATION Aiメンバーとモノづくり企業とのマッチングなど、イノベーション創出に向けた取組が積極的に進められることに期待しています。



これで、「STATION Aiパートナー拠点」としては2021年10月の東三河スタートアップ推進協議会、2023年9月のウェルネスバレー推進協議会(大府市)に続いて3番目となります。

## 11.22 金 ▶ 「あいち技能五輪・アビリンピック」Aichi Sky Expoをものづくりの甲子園に

あ

いち技能五輪・アビリンピック2024合同開会式に参加しました。

今回、技能五輪には41種目に976名、パラリンピックには25種目に405名の選手が参加しています。開会式のメインアトラクションとして、愛知商業高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスが披露され、舞台一面を使った大きな紙に「奮励激闘」の文字を書いて下さいました。

選手の皆さんにはそれぞれの県の代表として、日頃の訓



練の成果を充分に発揮され、素晴らしいパフォーマンスが得られることをお祈りしていますと共に、今後も技能を磨き更なるご活躍を頂くとともに、その素晴らしい技を次の世代にしっかりと引き継いで頂くことを期待しています。

今回の会場となった常滑市のAichi Sky Expoでの大会開催は、2019年にAichi Sky Expoがオープンして以来、今回で4回目を数えます。そして、2025年度も2026年度もAichi Sky Expoをメイン会場として開催される予定になっていますので、それが実現すれば2023年度から史上初となる4年連続の同一県での開催となります。愛知県がものづくりが盛んな県であるからこそ、Aichi Sky Expoが高校野球における甲子園のような位置付けとなって、Aichi Sky Expoでの大会に出場することが目標となるような存在となることを願っています。

さらに2028年には「技能五輪国際大会」がで開催されます。「人づくりこそが国づくり」…こうした大会を通して愛知県のものづくりが益々発展することを祈っています。

## 11.29 金 ▶ 水道水における有機フッ素化合物「PFAS」 初の全国調査結果が公表

先

の6月定例会の建設委員会で質問をした発がん性が懸念される有機フッ素化合物「PFAS」について、水道水への含有量に関する初の全国調査結果が公表されました。



令和2年度～5年度までは、国が定めた含有濃度の暫定目標値(1リットルあたり50ナノグラム)を超過したのは12都府県の14事業あったのですが、今回の結果では国の暫定目標値を超えた水道事業者はなかったのですが、愛知県では岩倉市水道事業が49ナノグラムと暫定目標値に近い数値が検出されました。

今回、暫定目標値を超えた水道事業者がなかったことについて環境省は「水源の切り替えや活性炭による浄化処理など自治体や水道事業者の対策が奏功したのでは」としていますが、そもそもその基準が緩いのではないかと私は思います。

アメリカは「1リットルあたり4ナノグラム」と日本より10倍以上厳しい基準となっている上に「今後3年以内に飲料水中のPFAS量を測定して、情報を公開するように」「基準を超えたPFASが測定された場合、5年以内に削減するよう対応を求める」としており、その対策費用は年間およそ15億ド

ル(約2300億円)と見積もっています。

政府は「今回の結果も踏まえ、新たな基準をつくり対策をする」としていますので、早急に対応して欲しいと思います。

## 12.4 水 愛知万博20周年記念事業を開催します

昨日に開会した12月定例会、今日は代表質問です。大村知事より『愛知万博20周年記念事業』についての答弁がありました。

2005年に開催した愛知万博から20周年を迎えるにあたり、2025年3月25日から2025年9月25日までの185日間(2005年の愛知万博と同じ会期です)、ジブリパーク全5エリアが開園して賑わいが増す愛・地球博記念公園において記念事業を開催するものです。

改めて愛知万博を振り返り、未来を担う若者たちにその成果や理念をつなげて行くと共に、国内外からの来園者に対して愛知の多彩な魅力を発信することを目的に開催されます。

開催のイメージとしては…

- ◎地球市民交流センターや園内各所で、万博の理念や成果を伝える展示・装飾等による常設展示を展開
- ◎月ごとにテーマを決めた実行委員会主催のイベントのほか企業や団体等、様々な主体と協力して、土日祝日や夏休み期間等に、見て・触れて・感じて楽しむことができる様々なイベントを開催
- ◎ジブリパークと連携したイベントを開催
- ◎同時期に開催される大阪・関西万博(4月13日～10月13日)と連携



## 12.7 土 愛知駅伝 刈谷市は大健闘で4位に

愛知・地球博公園で開催される愛知万博メモリアル愛知駅伝に出場する刈谷市チームの激励に伺いました。

愛知県内全ての市町村54チームが出場して9区間30.2 Kmを襷を繋ぎます。2005年に開催された「愛知万博」のメモリアルイベントとして開催され、次世代へ語り継ぐと同時に、愛知県内各市町村の交流、市町村合併後の一体化の促進、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を主目的として実施されており今年で17回目、東海テレビでの放送などもあり愛知県の冬の風物詩になっています。

会場では「愛知ふるさと市」が開かれ、各市町村の物産品



◀箱根駅伝で活躍した神野選手



を紹介・販売するブースが出店し、それぞれの市町村の関係者などが交流しており、単に駅伝としてタイムを争う競技だけに止まらない魅力のあるイベントです。刈谷市は昨年まではブースを出していなかったのですが、今年初めて出店したので、その点を大村知事にしっかりPRしておきました。

その他、刈谷市陸上連盟会長の平野さん、副会長の沖野さん、西尾市の中村市長、愛知県議の永田さん・喚田さん、かつて青山学院大学時代に箱根駅伝で活躍した神野選手、手作りの横断幕を持って応援していた地元雁が音中学校の生徒の皆さんなど、私も沢山の方と交流することが出来ました。

そして…刈谷市の結果は、大健闘で4位とのこと。選手の皆さんの活躍に敬意を表します。おめでとうございます!

# 12.9 金 名古屋三河道路の概略ルートが決定しました

**名** 古屋三河道路の第3回有識者会議が開催されました。

名古屋三河道路は、知多地域及び西三河地域を東西に貫く高規格道路であり、名古屋港や中部国際空港へのアクセス性を高めるほか、伊勢湾岸自動車道とのダブルネットワーク機能により、国土強靱化にも資する重要な道路です。

2021年3月に国及び県の新広域道路交通計画において高規格道路（調査中）に位置付けられ、2022年3月に西知多道路から名豊道路までを優先整備区間に設定し、今年度から県が新たに「概略ルート・構造の検討」を進めており、私も自ら行う県政報告会などで参加者にそのアンケート用紙を渡して、皆様からの意見を求めていましたので、今回の有識者会議での決定はとても気になるところです。

アンケートでは

◎A案（北側ルート：起終点間の速達性を重視した最短距離の自動車専用道ルート）

◎B案（南側ルート：起終点間の速達性と沿線の生産拠点へのアクセス性の向上の双方を考慮した自動車専用道ルート）

◎C案（現道活用ルート：コストを抑えながら起終点間の既存ルートの交通容量を拡大し、速達性向上を図る現道強化ルート）

の3つの案が示されており、皆さんの声を集約した結果B案に決定をしました。

このB案は、アクセスが向上する事業所数や防災拠点数が他のルートよりも多い利点がありますが、一方で、田園地帯を通過する区間が長くあり自然環境への影響が比較的大きい可能性があります。

路線としては、**国道23号高棚北IC～依佐美の工業団地付近～境川浄化センター辺りで境川を渡り、知多半島道路の阿久比IC辺りを通って西知多道路の長浦ICを結ぶ**といった感じ です。今後、事業化に向けて詳細なルートの検討や都市計画、環境影響評価などの手続きが進められていきます。



# 12.19 木 12月定例愛知県議会が閉会しました

**18** 日間の会期で行われた12月定例愛知県議会も今日が最終日です。補正予算関係議案11件、条例関係議案18件、その他の議案36件が可決承認し閉会しました。

補正予算の主な概要は…

- 愛知県基幹的広域防災拠点の整備

- 愛知芸術文化センターの活性化を図るため、民間事業者による建物管理及び芸術劇場の運営の実施

- 高温対策に必要な農業機械、設備等の導入を支援し、農業生産力の向上を図る

